

○「第33回中国地方ダム等管理フォローアップ委員会」において、「坂根堰定期報告書」の審議を行った。

○審議は、「洪水の安全な流下、利水補給、堆砂、水質、生物、堰と地域との関わり」の6項目について、平成29年度から令和3年度までの期間を主な対象として行った。

各項目に関する審議結果は以下の通りである。

1. 「洪水の安全な流下」

評価期間である平成29年度～令和3年度の間に計3回の全開操作を行い、所期の機能を発揮している。今後も気候変動の影響によって豪雨の頻発・激甚化が懸念されており、堰の治水上の効果を最大限発揮できるよう、引き続き洪水の安全な流下のための堰操作を行われたい。

2. 「利水補給」

所期の機能を発揮し、受益地に貢献している。今後も堰を適切に管理・運用し、堰下流域への利水補給を行われたい。

3. 「堆砂」

貯水池内が洗掘傾向であるが管理上の問題は生じていない。今後も適切な方法により測量等を継続して実施し、堆砂状況を把握されたい。また、堰上下流の土砂動態についても定期的に実施される各種調査を活用し、把握されたい。

4. 「水質」

利水上の問題は生じておらず、大きな問題は無い。堰の管理・運用に必要な水質や底質の調査を継続されたい。

5. 「生物」

生物の生息・生育環境に大きな変化は見られていないが、今後も調査を継続し生物の生息・生育環境の把握に努められたい。

また、環境保全対策の魚道改良については必要な検討体制を構築し、遡上効果の向上を計画的に進められたい。加えて、効果把握のための調査についても有識者等の意見を聞きながら効率的な調査方法を検討し、実施されたい。さらに、地域と協働で実施している重要種に対する環境保全対策は一定の効果を上げていることから今後も継続されたい。

6. 「堰と地域との関わり」

坂根堰が果たす治水や利水の役割について、その貢献状況が地域に理解されるような「堰の役割の見える化」を促進されたい。

特に、教育現場との関係強化を行うとともに、教育現場への情報発信や実情にあわせた支援を行い、坂根堰の果たす役割と現況を地域に適切に伝えるための取り組みを推進されたい。

以上